



展示期間 A:3/25(火)~4/22(火) B:4/23(水)~5/20(火) C:5/21(水)~6/22(日)

・都合により出品作品が変更になる場合がございます。
・指定:○は重要美術品を示します。

武家のシンボル — 武具・刀剣 —

No. 指定	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	金箔置紅糸威具足	徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)着用	江戸	18	
2	葵紋蒔絵糸巻太刀拵	伝徳川宗春(尾張家7代)・松平勝長(同家8代宗勝6男)所用	江戸	18	A B
3	梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	C
4	金紙采配 鉄刀木柄	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	A B
5	白熊毛采配 桐紋蒔絵柄	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	C
6	豹皮尻鞆	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	C
7	上り藤馬標	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	
8	青貝柄槍拵 黒塗鞆付 5本		江戸	18-19	
9	葵紋蒔絵細太刀拵		江戸	18	A B
10	葵紋鳳凰蒔絵螺鈿飾太刀拵	徳川齊荘(尾張家12代)・慶勝(同家14代)所用	江戸	天保10年<1839>	C
11	蠟色塗刀拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A B
12	蠟色塗脇指拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A B
13	蠟色塗刀拵	徳川慶勝(尾張家14代)所用	江戸	嘉永5年<1852>	C
14	蠟色塗脇指拵	徳川慶勝(尾張家14代)所用	江戸	嘉永5年<1852>	C
15	太刀 銘 貞真	徳川家康所持	鎌倉	13	
16 ○	刀 無銘 吉家	松平信古(三河吉田松平家7代)・徳川義宜(尾張家16代)所持	平安-鎌倉	12-13	
17	脇指 銘 江州高木住貞宗	徳川忠長・徳川義直(尾張家初代)所持	南北朝	14	
18 ○	短刀 無銘 正宗	浅野光晟(浅野家2代)所持 徳川将軍家伝来	鎌倉	14	
19	重藤弓	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	
20	征矢 25本の内	田安德川家伝来	江戸	18	
21	鏃(矢の根) 74本の内	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	
22	弩 2挺の内	徳川光友(尾張家2代)所用	江戸	17	
23	牡丹唐草蒔絵狩籠	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	18	A B
24	藤蒔絵矢筒		江戸	17-18	C
25	火縄銃 三匁五分筒 銘 寛永十八辛年十月吉日 松屋半九郎		江戸	寛永18年<1641>	
26	火縄銃 三匁五分筒 銘 鋼藤巻張 嘉永五年子十一月吉日 芝辻伝左衛門清定(花押)		江戸	嘉永5年<1852>	
27	火縄銃 三十匁筒 「天」金象嵌 銘 国友氏正		江戸	文化11年<1814>	
28	御天守二有之候御腰物御脇指帳 慶安四卯三月廿六日		江戸	慶安4年<1651>	
29 ○	本阿弥光忠折紙 元禄拾年丑閏二月三日 (No. 16 刀 無銘 吉家 附属)		江戸	元禄10年<1697>	
30	水鳥図三所物 銘 乗真(後藤家3代)作 光理(同家12代)(花押)		室町	16	
31	須磨の浦図小柄 銘 紋徳乗(後藤家5代) 光理(同家12代)(花押)		桃山-江戸	16-17	
32	薄鮎図笄 無銘 宗乗(後藤家2代)		室町	16	
33	波に貝尽し図目貫 無銘 栄乗(後藤家6代)		江戸	17	
34	竹林図透鉄鐺		江戸	18	
35	木曾図四分一鐺 銘 蓋雲堂直随彫 於福嶋寓居 木曾水湍図 池井信親画		江戸	18-19	

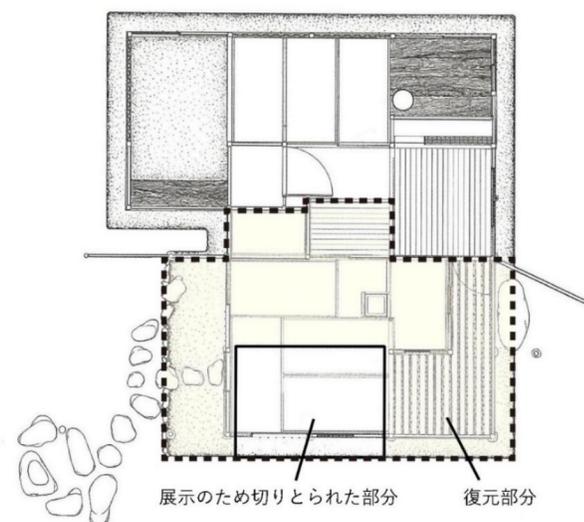
大名の数寄 — 茶の湯 —

No. 指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
猿面茶室					
1	和歌懐紙「ほととぎす」	徳川宗睦(尾張家9代)筆	江戸	18	A
2	織田有楽書状 梅岑軒宛 五月廿一日		江戸	17	B
3	後拾遺和歌集切	伝藤原良経筆	鎌倉	13	C
4	伊賀耳付花生	岡谷家寄贈	桃山-江戸	16-17	
5	芦屋網代釜		江戸	17	
6	染付花蝶文獅子耳水指		明-清	17	
7	唐物文琳茶入		南宋-元	13-14	
8	千利休竹茶杓 良休宗佐(随流斎・表千家5代)追筒 大徳寺三玄院伝来		桃山	16	A B
9	小堀遠州竹茶杓 銘 郭公	徳川光友(尾張家2代)・綱誠(同家3代)・吉通(同家4代)所持	江戸	17	C
10	高麗貝尻茶碗	徳川義直(尾張家初代)・光友(同家2代)所持 個人蔵	朝鮮王朝	16-17	
11	○香紙切 麗花集切	伝藤原佐理筆 岡谷家寄贈	平安	11	A
12	豊臣秀吉自筆書状 おね宛 (天正二十年)五月六日		桃山	天正20年<1592>	B
13	和歌色紙「神風や」	徳川秀忠(2代将軍)筆 藤田男爵家・森川勘一郎(如春庵)旧蔵	桃山-江戸	16-17	C
14	○鋤田図 二幅対の内	王一寧ほか賛・石鋭筆	明	15	A
15	墨竹図 二幅対の内 右幅		明	15-16	B
16	墨竹図 二幅対の内 左幅		明	15-16	C
17	古銅扁壺形花生		春秋戦国	紀元前3	
18	青磁中蕪形花生		南宋-元	13-14	
19	染付唐子文蓋付水注 銘 大明嘉靖年製 一对の内		明	16	
20	唐物茶壺 銘 大般若 大名物	徳川家康・徳川頼宣(紀伊家初代)所用 伊予西条松平家伝来	南宋-元	13-14	
21	唐物文茄茶入 銘 玉すだれ		南宋-元	13-14	
22	古瀬戸野田手茶入 銘 蓬生		室町	15-16	
23	油滴天目(星建蓋)		南宋	12-13	
24	井戸茶碗		朝鮮王朝	16	
25	玳瑁天目		南宋	12-13	

【見どころ —猿面茶室—】

名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていた。

もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝わる。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築されたが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付。さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設されたのち、昭和20年(1945)に戦災焼失した。



大名の室礼 — 書院飾り —

No.	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間						
押板飾り						
1	牡丹図	三幅対	伝王若水(王淵)筆 土浦藩土屋家伝来	元-明	14-15	A
2	梅に寿老人図・松に鶴図・竹に亀図	三幅対	伝狩野探幽筆 個人蔵	江戸	17	C
3	鍾馗・龍に波図	三幅対	狩野常信筆 徳川慶喜(15代将軍)所用 徳川慶久(徳川慶喜7男)氏寄贈	江戸	17-18	B
4	青磁燭台			明	16	
5	青磁菊花文三ツ足香炉			元	14	
6	青磁竹節文中蕪形花生			南宋-元	13-14	
7	紅花緑葉牡丹文香合			明	16	A B
8	堆朱梔子文香合 彫銘「張成造」			明	16	C
9	火道具			江戸	18	
10	古銅饗饗文分銅形花生	一对		明	15-16	

No. 指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
違棚飾り					
11	古銅鴨香炉	徳川義直(尾張家初代)所用	明	14-15	
12	孔雀羽蒔絵沈箱		江戸	17	A B
13	紅花緑葉牡丹尾長鳥文沈箱		明	16	C
14	螺鈿花鳥人物食籠		明	16-17	A B
15	八角網代食籠	斉藤芳克氏寄贈	明-清	16-17	C
書院床飾り					
16	唐草文堆起長角盆		東南アジア	17-18	A B
17	螺鈿人物図軸盆		明-清	16-17	C
18	古銅雨龍形筆架	徳川義直(尾張家初代)所用	明	16	
19	瑪瑙柄刀子 附 金唐革鞘		明	17	A B
20	雨龍透彫刀子 銘 康継作之		江戸	17	C
21	雲龍文彫木黒漆軸筆		明	16-17	A B
22	砂張筆		明	16-17	C
23	古銅雨龍形文鎮		明	16	
24	古銅唐子水牛形水滴	個人蔵	明	16	
25	端溪北斗七星硯		北宋	12-13	
26	唐銅牛乘人物透硯屏	個人蔵	明	16	
27	紫石卦算 二対の内		江戸	19	
28	螺鈿樓閣人物図印籠・盆		明	15-16	A B
29	堆朱人物虎図印籠		明-清	17-18	C
30	古銅鳥注口六角形水注	個人蔵	明	16-17	
31	堆朱樓閣人物図小菱実形盆		元	14	A B
32	堆黒菱形唐花文盆		江戸	17	C

鎖の間

上段の間					
1	八角獅子彫硯	<p>【見どころ 一鎖の間一】 天井から炉の上に鎖を吊って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院(広間)の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的に使われた。</p>	明	16-17	
2	鉄切合風炉・釜 辻與次郎作		桃山	16	
3	唐銅花鳥文鍍金水指		明	14-15	
4	砂張砧形杓立		南宋	12-13	
5	唐銅銀象嵌建水		江戸	18	
6	唐銅穗屋香炉蓋置		江戸	18	
7	唐物丸壺茶入		元-明	14-15	
8	建蓋天目		南宋	12-13	
9	堆朱菊牡丹唐花文天目台 彫銘「楊茂造」		明	15	A B

次の間					
10	布袋図	徳川家綱(4代将軍)筆	江戸	17	A
11	福祿寿図	徳川綱吉(5代将軍)筆 津田昌明氏寄贈	江戸	17	C
12	釣瓶藤燕之図	英一蝶筆 個人蔵	江戸	17	B
13	青磁獅子鈕阿古陀形香炉		明	15-16	
14	真形葵紋糸目釜	宮崎寒雉作 個人蔵	江戸	17	
15	唐物自在釜掛		明	16	
16	染付吉祥文手桶形水指		江戸	19	
17	千歳棗 徳川斉荘(尾張家12代)好	水田宗慶氏寄贈	江戸	19	A B
18	紹鷗大棗(彭祖棗)	中村宗哲(3代)作 個人蔵	江戸	18	C
19	萩三島写外花茶碗		江戸	17-18	
20	砂張建水	近藤家寄贈	東南アジア	17-18	

武家の式楽 — 能 —

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面	若男 焼印「天下一友閑」	友閑満庸作	江戸	17	A
2	能面	小面 黒漆花押	伝出目寿満作	江戸	17-18	A
3	能面	曲見	伝大宮大和真盛作	江戸	17-18	B
4	能面	小面	個人蔵	江戸	17-18	B
5	能面	大癒見		江戸	18	C
6	狂言面	鳶		江戸	18-19	C
能舞台						
7		白地立涌文金欄袷狩衣		江戸	18	B
8		紺地牡丹・獅子丸文金欄袷狩衣	<p>【見どころ — 能舞台 —】 御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。 正月2日(後に3日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うこともあり、能は必須の教養とされていた。</p>	江戸	18	C
9		茶地鶴菱・桐文金欄袷法被		江戸	18	A
10		白地震に藤文金欄長絹		江戸	18-19	A
11		萌黄地水仙牡丹の丸・花熨斗文金欄長絹		江戸	18	B
12		白地水草文長絹		江戸	18	C
13		紫地鉄線唐草文水衣		江戸	19	B
14		浅葱地七宝文・花色地紗綾形文染分掛素袍		江戸	18-19	A
15		蜘蛛巣・柳に燕文染分掛素袍		江戸	18-19	C
16		紅・浅葱段入子菱に牡丹蝶文唐織		江戸	17	A
17		紅・白・浅葱段に垣に菊文唐織		江戸	17-18	B
18		赤地四つ花菱文厚板唐織		江戸	18	C
19		白地銀桜花文摺箔		江戸	19	A
20		紅・白段桐唐草文厚板		江戸	18	B
21		格子と青海波に唐花文段替厚板		江戸	17-18	C
22		天冠		江戸	19	A
23		初冠		江戸	19	B
24		黒頭		江戸	19	C
25		羽団扇		江戸	19	C
26		花色地鉄線文鬘帯		江戸	18-19	A
27		花色地八ツ橋文鬘帯		江戸	18	B
28		赤地松に藤文腰帯	江戸	18-19	A	
29		紅地杜若・水仙文腰帯	江戸	18-19	B	

大名の雅び — 奥道具 —

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1		菊折枝蒔絵乗物	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18	
2		菊折枝蒔絵挟箱 一对	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18	
3		菊折枝蒔絵蓑箱	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18	
4		菊折枝蒔絵日傘	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	19	
5		菊折枝蒔絵茶弁当	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18	
6		菊折枝蒔絵櫛文庫	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	18	AB
7		菊折枝蒔絵小角赤手箱	伝転院好君(尾張家9代宗睦正室)所用	江戸	18	AB
8		菊折枝蒔絵碁盤	諸戸家寄贈	江戸	19	AB
9		菊折枝蒔絵将棋盤		江戸	18	AB
10		八橋蒔絵提重		江戸	18-19	C
11		梅蒔絵重箱		江戸	17	C
12		海棠山雀蒔絵重箱		江戸	19	C
13		蠟色銘々蒔絵会席椀 10客の内		江戸	19	C
14		吉野塗膳・壺椀・平椀 5人前の内		江戸	19	C
15		菊折枝蒔絵雑道具 茶弁当	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	19	AB
16		菊折枝蒔絵守刀掛	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	19	C
17		蠟色塗合口拵	徳川家斉(11代将軍)・徳川齐温(尾張家11代)所用	江戸	19	C
18		天保十二丑年俊恭院様御道具帳		江戸	天保12年<1841>	
19		福君江戸下向行列図		江戸	19	A
20		石清水八幡臨時祭礼図巻 三巻の内 上巻	原在明筆 俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)・徳川齐朝(同家10代)所用	江戸	天保7年<1836>	B
21		文正草子絵巻 三巻の内 中巻	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	17	C